

ハッピーアワー 劇場公開1周年記念特集上映

ハッピー・ハマグチ・アワー

ハッピーアワー



プロデューサー：高田聡、岡本英之、野原佳子/監督：濱口竜介/脚本：濱口竜介、野原佳子、高橋知由/撮影：北川喜雄/録音：松野英/美術：山本英之/編集：山本英之/音楽：阿部海太郎
出演：田中幸恵、菊池葉月、三原麻衣子、川村りら
2015年/317分/HD/カラー

30代後半を迎えた、あかり、桜子、美美、純の4人。お互いに、何でも話せる親友同士だと思っていた。純の秘密を知るまでは……。

神戸を舞台にした本作で、等身大の主人公を演じた4名(田中幸恵、菊池葉月、三原麻衣子、川村りら)は第68回ロカルノ国際映画祭において最優秀女優賞を獲得し、脚本にもスペシャル・メンションが授与された。その後もナント、シंगाポール、パロセロナ、グナファトの国際映画祭において、それぞれ準グランプリ、監督賞、観客賞、そして作品賞を受賞するなど、作品に対して国際的・多面的な評価が与えられている。国内ロードショーでもヒットを記録した『ハッピーアワー』はもはや名実ともに濱口竜介の代表作と言えるだろう。劇場公開1周年を記念して、ついに本特集で東京・関西に帰還。

天国はまだ遠い



プロデューサー：高田聡、岡本英之/監督：濱口竜介/撮影：北川喜雄/録音：西田大祐/監修：松野英/助監督：高野敏
出演：岡部尚、小川あん、玄理
2016年/38分/HD/カラー

AVのモザイク付けを生業とする雄三は、女子高生の三月(みつぎ)と奇妙な共同生活を送っている。ある日、三月の妹から雄三に、一本の電話が入る。

元々『ハッピーアワー』クラウドファンディングの特典として企画された短編。現時点で濱口竜介の最新作である。ドキュメンタリー、正面ショット、ダンスとこれまでの濱口作品のモチーフが類出する一方で、新境地とも言える軽やかさが印象深い。それをまとめたのは、『PASSION』『永遠に君を愛す』出演の岡部尚との久しぶりのコラボレーション。そして新たな協働者である小川あん、玄理の躍りだ。虚実の間を揺れ動くインタビューシーンは必見。

不気味なもの肌に触れる



製作：LOAD SHOW、fictive/プロデューサー：北原真、岡本英之、濱口竜介/監督：濱口竜介/脚本：高橋知由/撮影：佐々木靖之/録音：長尾寛史/録音：黄永昌/助監督：野原佳子/制作：城内政芳/振付：砂津尾理
出演：染谷将太、石田法嗣、沢川清彦、瀬戸夏実、水越朝河、河井青葉、村上淳 ほか
2013年/54分/HD/カラー

斗音(トウゴ)の暮らす町に弟・千尋が引っ越して来た。その日以来斗音の町では不穏なできごとが起こり始める。

わずか55分の内に、自らを異質性に向けて解放し変容し続ける濱口の特質性が凝縮されている。脚本の高橋知由、踊りの指導を担当し出演もしている砂津尾理との出会いが濱口に進化/深化をもたらしている。染谷将太と石田法嗣の踊りの官能性と狂態さ、不可解かつ表裏的には不連続な物語にもかかわらず貫一貫して持続するエモーション、端正さと異様さとが入り交じるショット構成等々、必見。
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

THE DEPTHS



製作：東京藝術大学大学院映像研究科/韓国国立フィルムアカデミー/プロデューサー：原亮志、シム・ユンボ/監督：濱口竜介/脚本：濱口竜介、大浦光太/撮影監督：ヤン・グンヨン/照明：後関健太/監音：金地宏晃/美術：田中浩二/編集：山崎梓/助監督：菊池健雄
出演：キム・ミンジョン、石田法嗣、パク・ソヒ、米村亮太郎、村上淳 ほか
2010年/121分/HD/カラー

韓国人カメラマン・ペファンは日本滞在中に男娼のリュウをモデルとして見出すも、過酷な運命が二人を待つ。

東京藝術大学と韓国国立映画アカデミーの共同製作。キャストだけでなくスタッフも混成チームという容易ならざる状況を、濱口作品そのものの色強い魅力へと転化し、韓国/日本、ホモセクシャル/バイセクシャル/ヘテロセクシャル、大人/子供、金持ち/貧乏人、堅気/ヤクザといった境界線の上で登場人物達を漂流させる。
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

記憶の香り



製作：東京藝術大学大学院映像研究科/プロデューサー：東條真秀吾/監督：濱口竜介/脚本：小林英香/撮影：照明：佐々木靖之/録音：早刈悠子/美術：田中浩二/編集：簡井武文/音楽：和田春
出演：藤川佳子、河井青葉、根岸結衣 ほか
2006年/27分/16mm→SD/カラー

繰り返しの日常の中で、不思議な少女との出会いによって運命を狂わされていく一人の男。

幽霊譚か、はたまた青春ドラマか。不可思議な物語の筋を丁寧に追うほどに、観客は深淵へと迷い込む。濱口曰く、東京藝大同期・小林英香の脚本に魅入られたようにして、あれよあれよときあがった魔性の短編。以降に協働作業を重ねる河井青葉や撮影・佐々木靖之との初仕事としても見逃せない。

親密さ



製作：ENBUゼミナール/監督：脚本：濱口竜介/撮影：北川喜雄/編集：鈴木宏/監音：黄永昌/助監督：佐々木亮介/制作：工藤淳/劇中歌：岡本英之
出演：平野鈴、佐藤亮、伊藤綾子、田山幹雄 ほか
2012年/255分/HD/カラー

ともに演出家であり、恋人同士でもある令子と良平は互いに傷つけ合いながら舞台劇『親密さ』初演を迎える。

4時間を超える大作だが、ENBUゼミナールの演技コースの修了作品としてスタートした企画である。映画と映画内の舞台劇の関係においてだけでなく、それぞれの中でも、現実と虚構が複雑、微妙に交錯し続け、虚実の彼岸にあるリアリティーの核心が胸を揺さぶる。美し過ぎるラストが、岡本英之の音楽とともに脳裡に焼き付く。
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

永遠に君を愛す



製作：竹澤平八郎/監督：濱口竜介/脚本：渡辺裕子/撮影：青木輝/照明：後関健太/録音：金地宏晃/監音：上條慎太郎/脚本：原尚子/編集：山崎梓/助監督：佐々木亮介/音楽：岡本英之
出演：河井青葉、杉山彦太、岡部尚、菅野初央、天光真弓、小田豊 ほか
2009年/58分/HD/カラー

結婚式当日の花嫁、永子は幸福の絶頂…のはずが、永子には未婚者・誠一に言い出せない秘密があった。

秀れた監督でもある渡辺裕子の脚本は、普通に映画にすればこの上なくウェルメイドなスクリーン・ポルノ・コメディとなったはずだ。しかし濱口が普通ではない、生まれ落ちたのは、凍りついた笑いと不思議な解放感が共存する怪作である。ヒッチコックの『ミス夫妻』に匹敵するこの異常事態を、あなたは見ずにはいられないのか?
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

レア短編集

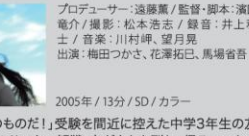
Friend of the Night



製作：岡本英之/監督・脚本・編集：濱口竜介/撮影：濱口竜介、松本浩志/録音：佐々木亮介/助監督：野原佳子
出演：鈴木里美、岡本英之、大平恵、梶尾翔平、櫻木麻衣 ほか
2005年/44分/SD/カラー

若手のシナリオライター・衛(まもる)は今まで手付けたことのない「ホラー」という発注にうまく応えられないでいる。友人の結婚式で同級生の奈美に出会った衛は、彼女にとって「何が一番怖いか」を聞き出そうとする。笑いとともに始まった「ある夜の友人」の話が、やがて衛と奈美の関係までも微妙に覆わされていく。

はじめ



プロデューサー：遠藤薫/監督・脚本：濱口竜介/撮影：松本浩志/録音：井上和士/音楽：川村呷、望月見
出演：梅田つかさ、花澤拓巳、馬場香吾
2005年/13分/SD/カラー

「今夜、世界は俺のものだ!」受験を間近に控えた中学3年生の友人は、年末に余裕のサッカー観戦。友だちと別れ、帰るいつもの田舎道。誰もいない静かな道で一人、詩のような言葉を唱えながら歩いていくとき、偶然同クラスの洋太にばったり出会った。

何食わぬ顔 (long version)



製作：監督：脚本：編集：濱口竜介/撮影：渡辺淳、濱口竜介、東辻賢治郎/録音：井上和士/音楽：David Nade, ROMAN
出演：松井智、濱口竜介、岡本英之、遠藤郁子、石井理絵 ほか
2002年/98分/8mm→SD/カラー

友人に言われるままに亡兄の遺作となる8ミリ映画を撮影する野村。彼の煮え切らない態度が周囲を戸惑わせる。

技術的な諸々の難点を除けば(これは大学の映画で撮られた8ミリ映画なのだ)、濱口竜介が既に濱口竜介であることが驚異的だ。的確な演出とショット割り、映画と映画内映画の関係複雑かつ繊細に構成した脚本。しかもここには、若さや仲間との親密さから来る楽しさが溢れている。
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

東北記録映画三部作

共同監督・酒井耕とともに震災後の東北で制作した「聞く」ドキュメンタリー集

なみのおと



製作：東京藝術大学大学院映像研究科/プロデューサー：藤井正樹、垣越謙三/監督：濱口竜介、酒井耕/撮影：北川喜雄
監音：黄永昌
2011/142分/HD/カラー

2011年7〜8月に撮影された岩手県から福島県沿岸部の、津波被災者6組11人への対話形式インタビューの記録。

酒井耕と共同監督で、東日本大震災についてのドキュメンタリー。濱口と酒井は、震災の爪痕を撮影したり、地震発生時の記録映像を引用したりせずに、被災者の証言を記録することに集中する。その際二人は、ドキュメンタリーでは捉えられずともされかねない方法を用いるが、これは被災者の表情により迫るための真摯な試みだ。
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

なみのこえ 気仙沼



製作：サイレントヴォイス/プロデューサー：芹沢高志、相澤久美/監督：濱口竜介、酒井耕/東東監音：佐々木靖之/監音：黄永昌
2013年/109分/HD/カラー

2012年1月から2013年3月に行われた宮城県気仙沼市に暮らす7組11名への対話形式インタビューの記録。

人口が減り続け復興の未来の見えない気仙沼だが、未来への希望を人々は微かに見ようとして。濱口と酒井は『なみのおと』の方法論を受け継ぎながらもそこに着目し、震災に直接関わる内容を超えて、被災者の過去をも掘り起こそうとする。喋るのが苦しい人々にあえてカメラの前で語らせることで、確かに見えてくるものがある。
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

なみのこえ 新地町



製作：サイレントヴォイス/プロデューサー：芹沢高志、相澤久美/監督：濱口竜介、酒井耕/実業撮影：北川喜雄/監音：鈴木昭彦
2013年/103分/HD/カラー

2012年1月から2012年6月に行われた福島県新地町に暮らす6組10名への対話形式インタビューの記録。

震災後約一年、原発事故後の不安と海の汚染や海産物の風評被害の下にある福島県新地町という。被災地の中でも相当に微妙な状況下で、濱口と酒井は、『なみのおと』の特質な方法論を先鋭化・徹底させながらも、複雑なものを単純化せず、分かり易くせずに提示し、観客に共有させよう、あるいは共有の困難さを示そうとする。
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

うたうひと



製作：サイレントヴォイス/プロデューサー：芹沢高志、相澤久美/監督：濱口竜介、酒井耕/撮影：飯岡幸子、北川喜雄、佐々木靖之/監音：黄永昌/助成：独立行政法人日本芸術文化振興会 ほか
2013年/120分/HD/カラー

宮城県に暮らす語り手による東北地方伝承の民話語り。これは同時に彼らに訪ねかけた聞き手の記録でもある。

酒井耕との共同監督作品で被災地に取材しながら、ここで濱口と酒井が取り上げるのは民話(昔話)を語る人々の逢あ。取材やインタビューの経験から触発されたこの作品では、語りは聞き手との反応があつてのコミュニケーションであることが浮き彫りにされ、さらには映画そのものの根源さえも問われることになるだろう。
※作品解説:木村建哉(映画研究者)

明日のキス



監督：脚本：濱口竜介/監督補：酒井耕/撮影：北川喜雄
2012年/3分/HD/カラー

「明日」をテーマに3分11秒の映画を作るといふ。仙台短編映画祭(2012年)の依頼で制作された。男は女にキスがしたい。女は今日はダメだと言う。理由は、今日すでにほかの男とキスをしたからだと言う。女は明日ならば、と言う。男は理解できない。キスを今日することと明日することには一体どんな違いがあるのか。

遊撃



製作：東京藝術大学大学院映像研究科/プロデューサー：垣越謙三/監督：脚本：濱口竜介/撮影：湯澤祐一/録音：光地拓也/編集：山本英子/美術：松岡隆/助監督：藤田つかき/制作：佐々木靖之
出演：土屋裕樹、工藤淳、山岡麻依子、千葉西、北浦正之
2006年/17分/SD/カラー

恵一は大学院の先輩・誠に想いを寄せているが、告白し振られる。誠はそれはおくまで性的指向の問題であつて、恵一人柄自体は否定しないと言う。諦めきれない恵一は、飲み会で夜を明かした勢いで再度告白を試みる。東京藝大入学直後「差別」というテーマを与えられて撮った一本。